六花

新潟大学の魅力と現在を発信

新潟大学季刊広報誌［RIKKA］
2025.WINTER
NIIGATA UNIVERSITY MAGAZINE
No.51

特集

大学院日本酒学プログラム

～日本酒を対象とした文理融合型教育研究～

授業紹介 -教育の現場-
Enjoy! 学生ライフ
注目される研究報告
活躍する卒業生紹介“学びの先”
教員によるコラム“知見と生活のあいだ”
基金関係のお知らせ
Campus Information

真の強さを学ぶ。
新潟大學
NIIGATA UNIVERSITY

Cover Photo

日本酒学センターに展示されている酒器たちは、愛好家の方から寄贈されたものの一部。個性を持った酒器たちには、日本酒の愉しみ方や文化などが映し出されている。

2025.WINTER No.51

CONTENTS

03 特集 大学院日本酒学プログラム ～日本酒を対象とした文理融合型教育研究～

08 授業紹介 －教育の現場－

09 Enjoy! 学生ライフ

10 注目される研究報告

12 活躍する卒業生紹介“学びの先”

13 教員によるコラム“知見と生活のあいだ”

14 基金関係のお知らせ

16 Campus Information

新潟大学SNS公式アカウント

@Niigata_Univ_O

@niigata_university

@niigata.univ

『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザイン化したものです。

題字
野中浩俊（のなか ひろとし）氏
新潟大学名誉教授（教育人間科学部）。専門は、書道、富岡鉄斎研究。現在は、岐阜女子大学 教授

特集

大学院日本酒学プログラム

～日本酒を対象とした文理融合型教育研究～

新潟大学の特徴的な学位プログラムの1つ「大学院日本酒学プログラム」。
2022年度に現代社会文化研究科及び自然科学研究科の博士前期課程に開設され、
翌2023年度には同プログラム博士後期課程がそれぞれ開設された。
また、2024年度同プログラムを学ぶ学生が携わった日本酒「六花の杜（りっかのもり）」が完成し、
創立75周年記念式典で披露された他、メディア等でも取り上げられている。
同プログラムで展開されている教育や研究の取組と、
そこで活躍する学生の声を紹介する。

世界初・新潟発の新しい学問領域

日本酒学とは、日本文化や伝統に根差した日本酒を対象に、それに係る広範な学問を網羅する世界初・新潟発の対象限定・領域横断型の学問領域だ。その源流は、2017年に新潟県、新潟県酒造組合、新潟大学の3者で締結された連携協定にさかのぼる。新潟大学ではこの協定に基づき、研究推進機構附置コア・ステーション「新潟大学日本酒学センター」を設置。フランスのボルドー大学ブドウ・ワイン科学研究所との連携協定締結など、海外への展開も積極的に行なってきた。2020年には全学共同教育研究組織となった。10学部を有する総合大学としての強みを活かし、新潟大学の広範な教育・研究分野の力を結集する全学的な体制が整えられた。

「日本酒学センターでは、専任教員の配置、特任教員の採用、『醸造』『社会・文化』『健康』の3ユニット、それをマネジメントする推進室の設置などの体制を構築してきました。実習室や醸造室などの施設整備も進め、2021年には清酒製造免許（試験製造）を取得し、日本酒醸造研究も可能になりました。日本酒学の世界的な教育・研究拠点の形成を目指し、広く認知されるよう教育・研究・情報発信・国際交流を4つの柱に活動を展開しています」

こう話すのは、末吉邦 日本酒学センター長。本特集では日本酒学センターの教員が中心となって運営する大学院日本酒学プログラム（以下「日本酒学プログラム」）に焦点を当てる。全学的な観点やプログラム全体に関すること、日本酒学センターの関わりについて聞いた。

領域を超えた幅広い視点から学ぶ

「日本酒学プログラムは領域を超えて体系だった座学と実習、

末吉 邦 理事（研究・大学院担当）・副学長／日本酒学センター長

イノベーションを創出する人材育成 大学院教育の意義は大きい

経済、経営、歴史、文化、酒蔵組織、日本酒とブランディング、酒税、建築都市、地域性、デザイン、文化史、日本酒と行政学、グローバル化などが研究領域として挙がる。また、後者では、発酵工学、食品科学、微生物学、植物栄養学、環境土壌学、水文学を含む日本酒学固有科目などが開講され、原料米、微生物、日本酒醸造、醸造物機能性、環境、酒と食の相性、健康長寿などが研究領域として挙がる。

いずれも日本酒という対象を共通の軸として、自らの専門領域に加え、幅広い領域を俯瞰した内容で教育・研究を行なう。博士前期課程を修了すると修士（学術）、博士後期課程を修了すると博士（学術）の学位が取得できる。日本酒学センターの平田大、岸保行両副センター長に聞いた。

イノベーション創出の中核となる文理融合型人材を育成

日本酒学プログラムの博士前期課程では文系・理系という学問的区分にとらわれず、領域横断的な知識力と発想力をもった、イノベーション創出の中核となる文理融合型人材を養成する。

各人の専攻科目の他、日本酒を軸とした幅広い知識と日本酒の基礎知識については「日本酒学固有科目」によって修得する。「日本酒学概論Ⅰ～Ⅴ」、「基礎・発展日本酒学実習」、「課題発掘・解決セミナー」により構成され、日本酒学センターの教員が中心となり各専門分野の学内教員及び外部講師が担当する。

「『日本酒学概論Ⅰ～Ⅴ』は、文系・理系の教員が連携しながら構築するオムニバスの講義で、日本酒の原料・生産から販売・消費、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い領域を俯瞰した内容です。また、『基礎日本酒学実習』は、日本酒製造のための原料・醸造方法の専門的知見・知識を修得する実験室レベルでの実習。『発展日本酒学実習』は、新潟県醸造試験場や酒蔵での日本酒醸造等の実習です。実社会で必要な課題解決・コミュニケーション能力を修得します。さらに『課題発掘・解決セミナー』で領域横断的な課題追求力と問題解決能力を修得します」（平田 副センター長）

日本酒学センター副センター長
（左）平田 大 教授　（右）岸 保行 准教授

実習を通じて日本酒の醸造を学ぶ

ディスカッション、酒蔵や他大学等と交流していくのが特徴です。学内外から多分野の研究者が教員として集まり、様々な視点から日本酒にアプローチしています」

社会から求められるイノベーションを創出する人材育成という点で大学院教育の意義は大きい。日本酒学プログラムでは、総合大学の強みを生かした「領域横断型の学び」と「主体的な問題解決型の学び」を提供することで、従来の醸造学・発酵学に留まらない幅広い視点と、日本の伝統的文化としての日本酒を多角的に学び、国内外に向けて発信できる人材の育成を目指している。

共通軸は日本酒 異なる領域を俯瞰した教育・研究

日本酒学プログラムは、現代社会文化研究科と自然科学研究科において開講されている。前者では、「経済学から見た酒」「酒と ベンチャービジネス」「酒蔵組織と経営」などの科目が開講され、

一つの事象に対する俯瞰的な学びは他分野にも応用できる

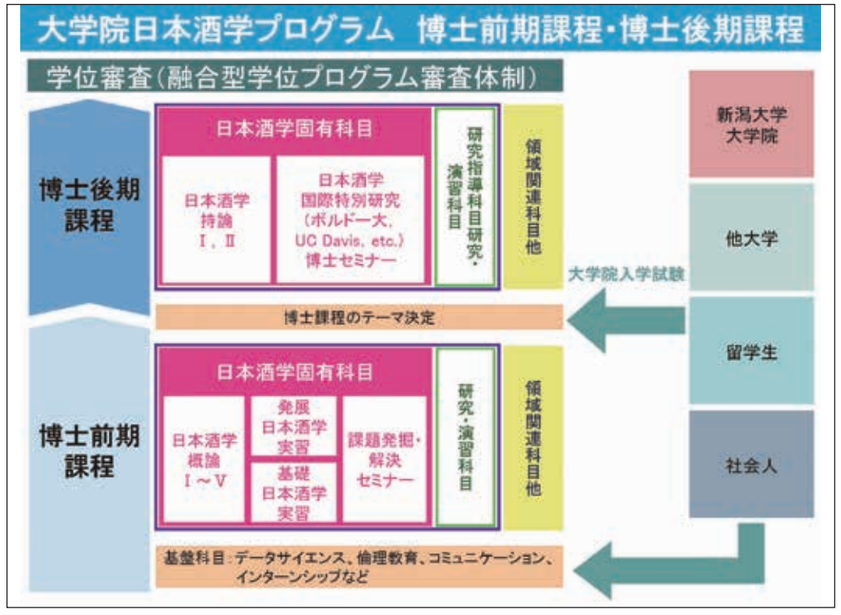
国際性とリーダーシップ 高度な専門性を有する人材養成

博士後期課程では、学問的区分にとらわれず、国際性とリーダーシップを兼ね備えた高度な専門性を有する人材を養成する。博士前期課程同様、自らの専攻科目に加え、日本酒を軸とした幅広い知識と専門知識は「日本酒学特論」、国際性は「日本酒学国際特別研究」で修得を目指す。「日本酒学博士セミナー」に加え、「特定研究」や「総合演習」等の科目において研究テーマを深め、領域横断的な高い課題追求力と問題解決能力を修得し、新たな価値創造につなげていく。

実習では専門家から直接醸造を学ぶことができるのも魅力だ

「日本酒学プログラムの現場で目の当たりにするのは、日本酒に対する若い世代の期待やモチベーション、専門領域以外への関心の高さです。全国的に文理融合型の大学院は少なく、日本酒を対象にしている大学院は新潟大学にしかありません。一つの事象に対する俯瞰的な学びは、他分野にも応用できるはずです」（平田 副センター長）

日本酒学プログラムへの入学者は、学部出身者や外国人留学生、他大学からの進学者など様々。中でも社会人経験者の経歴は実に興味深い。



日本酒というコンテンツを使い高度人材を育成する

基礎日本酒学実習の様子

「彼らは、日本酒の販売関係、輸入業、食品科学系企業の他、寿司屋、ライターなど、日本酒に関わり働く中で、さらなるキャリアアップや事業拡大を志し、大学院に進学してきています」（岸 副センター長）

社会の閉塞感を打破する強い力に

日本酒学プログラムでは日本酒を対象としているが、ここで修得した能力は多様な領域に展開できる。ここから輩出される人材は、醸造、流通、販売、商社等の日本酒業界にとどまらず、様々な分野での研究開発、コンサルティング、事業創造を含む未来産業分野での活躍が期待される。

「私たちは日本酒というコンテンツを使って、自身の専門の周辺領域を俯瞰して見られる高度人材、産業界のリーダーを育成するのです。日本酒学プログラムで修得される能力は、日本社会の閉塞感を打破する強い力につながるはずです」（岸 副センター長）

大学院生らが醸造に携わった日本酒

博士前期課程の科目の一つである「発展日本酒学実習」では、2023年12月から2024年2月に新潟県醸造試験場で酒造りに携わった。そこで醸造された日本酒は「六花の杜（りっかのもり）」と命名され、牛木辰男学長によるオリジナルデザインのラベルが用いられている。2024年10月19日に開催された新潟大学創立75周年記念式典でお披露目され、11月3日に開催された学生主催の「新大祭 ～in 古町ルフル～」では試飲会を開催。来場者にふるまわれ、「飲み比べをした中で、一番美味しかった」、「学生が醸造に携わったというところに、とても興味を持った」など多数の声が寄せられた。実習における大きな成果だ。

六花の杜
特設サイト

日本酒学、始めてみませんか?

新潟大学大学院
現代社会文化研究科
経済経営専攻 日本酒学分野
日本酒学コース 博士前期課程1年
本田久美子さん

2023年の正月、何気なく飲んだ新潟のある純米吟醸酒。それが私と日本酒との出会いでした。たまたま飲んだ日本酒が、とても美味しく、それから日本酒のことをもっと知りたくなり日本酒学なる専門コースがある新潟大学大学院を発見、飛び込んだ次第です。

授業は遠隔受講がほとんどですが、夏の約1カ月間、自然科学研究科と文理融合で行なう日本酒の製造過程の基礎実習のため、ほぼ毎日登校し、文系出身の私は戸惑いながらも興味深い実験を行ないました。顕微鏡で酵母を目にした時の感動は忘れられません。

文系の同級生は中国人の二人です。二人とも勉強熱心で努力家で、私も大きな刺激を受けています。私自身は、現在「地域と日本酒の繋がりを原料米から考察する」ことを研究テーマに日々先行論文や関連事項の探索に勤しんでいます。同時に日本酒に関する専門授業も受講し、新しい知識や見方の発見に喜びを得ています。

私は大学卒業後、30年以上経って大学院に入学しました。年齢や仕事、家庭のことを考えて受験に逡巡しましたが、思い切って入学して本当に良かったです。現代社会文化研究科の日本酒学コースは社会人学生がメインなので、その対応が充実しています。両研究科の先生方も本当に親身で、学生が抱く疑問や悩みに温かく応じて下さいます。みなさんも「日本酒学、始めてみませんか?」。

文理の融合をなくしてイノベーションは実現しない

日本酒学が拓く未来 文理融合によるイノベーション

日本酒学プログラムでの学びとその後に寄せられる期待は大きい。再び末吉 センター長に話を聞いた。

「例えば、経済を専門に学びながら醸造についての知識を持つことは、修了後の社会において大きな強みになります。また、異分野で培った研究プロセスは自身の研究にも刺激を与えるはずです。分野ごとに異なる方法論を学ぶことで、異分野の研究者への理解やリスペクトも深まるでしょう。これこそが融合型プログラムの利点です。日本酒は飲み物として人と人を繋げる優れた媒介ですが、研究者同士のコミュニケーションを高める研究対象としても価値があると考えています。さらに、日本酒学が他分野へと波及し、文系・理系の研究者がディスカッションする機会が増えることで、新たな研究テーマが生まれることを期待しています。日本酒と食のマリアージュを感覚的なものではなく、香りや成分分析と組み合わせてマーケティングや酒の開発に活用する研究が進めば面白いでしょう」

ますます複雑化し、競争力が求められる現代社会において、文理の融合をなくして課題解決やイノベーションは実現しない。イノベーションとは、新たな結びつきを生み出すこと。日本酒学は、その先行モデルとして極めて分かりやすく、新潟ならではの地域特性も活かされている。

日本酒学を通して培った多角的視点・課題解決力を将来に活かす

新潟大学大学院 自然科学研究科
生命・食料科学専攻 日本酒学コース
博士前期課程2年 大場ななほさん

私が日本酒学コースに進学した理由は、酒造りでの微生物の働きなど自然科学的側面だけでなく、歴史やマーケティングなど社会文化的側面の理解も深めることができる領域横断型のカリキュラムに魅力を感じたからです。

本コースでは、新潟県醸造試験場での醸造実習や、酒造りの現場での技術や経営などに触れることができる酒蔵訪問など、研究室や講義室の中では学びきれない「酒どころ新潟」ならではの魅力あふれる講義を受講することができます。さらに、文理共修の場として専門分野の異なる学生たちと日本酒を多角的に理解するために様々な角度から議論し合う機会も豊富です。

私は研究では酵母を使いました。酵母はパンや日本酒の製造で「発酵」を担う身近な微生物ですが、人間の生命現象を理解するためのモデル生物としても利用されます。私の研究テーマは「酵母を用いた健康長寿に関わる遺伝子の探索」ですが、高品質な清酒醸造のための新たな清酒酵母開発への展開も可能です。日本酒学コースでの実習や文理の枠を超えた議論と交流、ボルドー大学への短期留学も経験し、これらは自身の研究を深める上でとても有意義なものとなり多角的視点や課題解決力を学ぶことができました。

修了後は大学院の研究とは異なりますが、人々の健康に貢献したい、という変わらぬ想いを胸に企業で機能性食品の研究開発に取り組み、本コースで学んだ多角的視点と課題解決力を活かし社会で活躍したいと考えています。

現代社会文化研究科と自然科学研究科の大学院生が実習等を通じて交流し、互いに刺激を受ける

意欲ある学生が伸び伸びと勉学に勤しむ

授業紹介

―教育の現場―

専門的な知識や技術の修得と、均整の取れた知識の獲得は
教育の重要な役割。約5,000科目の中から特色ある授業を紹介。

工学部

今村 孝准教授
Takashi Imamura

Profile　博士（工学）。専門は機構学。制御工学、信号処理、情報工学の各工学技術の統合・融合・応用に関する研究を行なう。

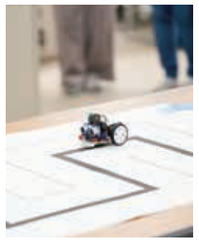
『知能情報システム実験Ⅰ～Ⅳ』

少人数グループで実験に取り組み講義の知識をより深い理解へつなげる

工学部知能情報システムプログラム3年次を対象にする『知能情報システム実験Ⅰ～Ⅳ』。各クォーターで2項目、全8項目の実験を行なう。学生を約20名ずつ4グループに分割し、4つのテーマを同時並行で実施する。実験を通じて授業内容を復習・体験し、理解を深め、同時に実験企画・実行能力、継続学習能力、他者と適切に協働する能力を身につけることを目的としている。

今村孝准教授が担当する『ロボット制御基礎』では、事前に情報を取り込んで制御を行なう「フィードフォワード制御」と、実際の状況に基づいて制御入力を決定する「フィードバック制御」の2つの基礎を学び、ロボットプログラミングとその結果から両者を比較する。

取材日の授業では車輪付きロボットの走行競技会が行なわれた。各グループがクランクコースと8の字コース用にプログラミングした2種類のロボットを走行させた。安定した正確な走りを重視したプログラミングや、スピードにこだわったプログラミングなど、それぞれの制御を用いた結果を目の当たりにして学生たちも大興奮。「実験は目の前で結果が出るから楽しい。失敗もまた学ぶきっかけになります。ここではグループワークや他者と話し合うことの大切さを知ってもらえることに期待しています」と今村准教授。競技会後にはそれぞれの制御手法の特性を調査・検討するグループディスカッションも実施された。



「制御工学は、エアコンやプリンタ、炊飯器など、私たちの身近にある機械に使われている技術です。実際に自分で作ったロボットを動かし、目的を達成する経験を楽しみながら、フィードフォワード制御のような論理的な思考と、フィードバック制御のような複雑化する世界に対応する能力を身につけてほしいと思っています」

STUDENT'S VOICE

左:山田優衣さん（工学部3年）
右:三浦大輔さん（工学部3年）

「小学生のときにゲームを作ってみたいと思い、情報分野やプログラミングに興味を持ちました。ロボット制御の授業は、考えなければならないことがたくさんあり大変ですが、楽しいです。今はCGとVRに興味があるので、4年次に学びたいです」（山田）「ロボット制御の授業は実践ならではの面白さがあります。1・2年次の講義ではイメージすることが難しかった様々な知識が、実践の場で「つながった」と感じます。グループワークで取り組むのでひとりでは得られなかった新しい視点を持つことができます」（三浦）

―小児医療宿泊施設―
ドナルド・マクドナルド・ハウス にいがた
病気と闘う子どもと、その家族が一緒にいられますように。
ハウスの運営は 100%皆様のご寄附で支えられています。
温かいご支援をよろしくお願いいたします。
詳細はこちら
お問い合わせ：サポーター連携推進室　TEL：025-262-6010　E-mail：kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp

Enjoy! 学生ライフ

新潟大学の学生は、勉学はもちろん
部活やサークルなどの課外活動でも活躍しています。
このページではそんな青春の1ページをお届けします。

↑メンバーは10人程度。毎月第二月曜の18:00～20:00、総合教育研究棟F棟で活動している。

手芸サークル home

自分が作ったものはオンリーワン 互いに認め、褒め合うことが楽しい

「手芸といっても、編み物や縫い物、羊毛フェルト、ビーズアクセサリー、レジンなど手法も材料も様々。以前は集まった際にみんなで同じものを作るということもしていましたが、現在は活動のたびにテーマ、例えば『12月はクリスマス』などと決めて、それぞれ別々のものを作ります」と部長の飯塚美咲さん。各人が自分の得意分野を持っていて、教え合いながら新しいことに挑戦できる点が魅力だ。「新しいことに挑戦したい人にとっても手芸は気軽に始められます。趣味が同じ仲間ができることはとても楽しいです」。手芸は自宅で一人でもできるが、集まって話しながら作る方が楽しいのだとか。机をくっつけ会話をしながら手を動かす、穏やかで緩く、和やかな雰囲気が印象的。大会や技術向上を目指す活動の雰囲気とはまた違う、互いの好きなものを認め合えることも手芸サークルhomeの魅力だ。

➡作品をイベントで販売することも。今年度は新大祭と新大祭in古町ルフルで販売した。来店者の「かわいい!」などの声を直接聞くことができ、モチベーションが上がったという。

お互いの作風を尊重し長く続けられることを意識しています。

部長
飯塚美咲さん
（人文学部2年）

新潟大学公式アプリ配信中

在学生、受験生、卒業生向けの
情報をコンパクトにまとめ、
随時お届けします！
ぜひダウンロードください。

App Store　Google Play

新潟大学の特色ある研究トピックを紹介

注目される 研究報告

新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合う研究や、先端的な研究など、真理探究や社会の発展に貢献する研究を行っています。

研究題目 東アジア産水生植物の分類学的研究と植物標本の利活用に関する研究

「生き物の歴史そのもの」を記録する標本の価値を次世代に伝える

日本国内の湿地は、開墾・開拓・開発の影響で減少し続けており、1970年と比較すると現在の面積は40～50%にまで縮小している。特に低湿地は人間の暮らしの影響を受けやすく、独自の環境が失われつつある。湿地に欠かせない水草も、農薬の影響などで現存する約半分が絶滅危惧種に指定されるほど厳しい状況にある。志賀隆准教授は、水生植物の進化や分類、多様性の歴史を研究する。

「日本は固有種が多い島国です。四季があり、標高差のある複雑な環境を持つ多様性のホットスポットになっています。日本の水生植物のルーツを追うと、ロシアや中国、モンゴルなど東アジアにたどり着きます。つまり、日本の生態系を理解するには、周辺地域の研究も欠かせません」

その過程で新種を発見することもある。2006年にはシモツケコウホネ、2015年にはサイコクヒメコウホネを新種として記載。これまでに自身や自身が関わる研究グループで6種の新種を発表。現在も記載途中の種が多数ある。

志賀准教授の研究において植物標本とその管理は非常に重要な役割を果たす。新潟大学における植物標本の歴史は、前身である師範学校時代までさかのぼるが、現在学内に保管されている標本は教育学部に残るもののみ。2012年からは志賀准教授が管理を担当している。

「標本庫には、様々な時代や地域、季節に収集された植物標本が収められており、100年前の標本も存在します。これらは採集された時期・場所に、その植物がどのように生きていたかを示す証拠となるものです」

↑サイコクヒメコウホネを新種記載した模式標本（タイプ標本）。模式標本とは、ある生物が新種として発表された時に、その種を定義する根拠となった標本。生物の分類において最も重要な標本であり、大切に保管されている。

標本の価値は、単なるデータの蓄積とは異なる。自然そのもののアーカイブとしての役割を果たし、過去の環境や生物相を直接証明する資料となる。

「正しく作製・管理された標本の中には種子が生きているものもあり、保存状態によっては発芽させることも可能です。また、標本があればDNA解析を含む最新の研究にも活用できます。さらに、標本には理科教育学的な価値もあります。標本に接して、自然環境の断片を直に観察することで、学びの幅が広がります」

標本の管理と活用を通じて、水生植物の多様性を守り、次世代へとつなげていくことを目指す。研究の先には「将来的に新潟に自然史博物館をつくり、地域の自然を学べる環境を整えたい」というビジョンもあるという。

教育学部
志賀 隆 准教授

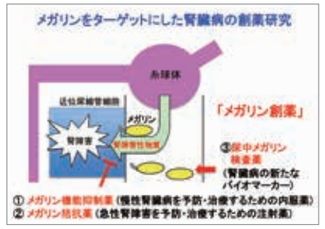
| Profile | 博士（理学）。専門は植物分類学。大阪市立自然史博物館の学芸員を経て現職。水辺の植物の多様性を調べ、保全していくための研究を進める。

研究題目 腎臓病に対する「メガリン創薬」

メガリンにフォーカスした新しい薬を開発し臨床応用を通じて腎臓病の克服に貢献する

腎臓の機能が慢性的に低下している状態を指す慢性腎臓病。日本では20歳以上の約7人に1人が罹患しており、新たな国民病と言われている。斎藤亮彦特任教授は、腎臓内に約100万個あるネフロンの近位尿細管に発現する「メガリン」に着目し、生体機能分子を臨床医学に応用するためのトランスレーショナルリサーチ（臨床への橋渡し研究）を進める。

「メガリンは、糸球体でろ過されたタンパク質や薬剤などの代謝に関わる受容体分子です。体に必要な物質を再吸収する一方、抗がん剤や抗菌剤といった腎障害を誘発する様々な物質も腎臓に取り込み、それが腎機能の低下につながっています。腎毒性物質の『入り口』分子であるメガリンの構造や物質を取り込むメカニズムを理解し、メガリンを標的とした慢性腎臓病および急性腎障害の創薬研究に取り組んでいます」



東京大学や横浜市立大学との共同研究では、メガリンの立体構造と物質の結合様式を解析。腎毒性物質がいかに結合するのかを明らかにした。

「クライオ電子顕微鏡法を通して、メガリンがどのように形成されていて結合ポケットがどうなっているのか、そして毒性物質がどこで結合しうるのかを解明しました。また、AIを活用した調査なども行なっています。腎臓の物質代謝機能における基本的な仕組みは分かってきたので、腎臓病を引き起こすメガリンと腎毒性物質の結合の阻害や抑制を促す薬の開発につなげていければと考えています」

斎藤特任教授が掲げるメガリン創薬は、①メガリン機能抑制薬、②メガリン拮抗薬、③尿中メガリン検査薬の3種。研究と並行して臨床現場に立ち、患者と向き合いながら新しい診断・予防・治療法の開発を目指す。

「糖尿病やメタボリックシンドロームとの関連が深い腎臓病は、近年患者数が増加しています。自覚症状がほとんど見られず、心血管疾患の合併率が高いほか、放っておくと透析や腎移植が必要になる場合もあり大きな問題です。現在、治験に向けて準備を進めている拮抗薬がありますが、我々は予防も兼ねたより有効なメガリン創薬を目指しています。これからもトランスレーショナルリサーチに注力し、研究成果を臨床で実用化していきたいです」

アメリカの大学への留学中に初めてメガリンのクローニングに成功して以来、研究と臨床の両方に勤しんできた斎藤特任教授が推進するメガリン創薬は、腎臓を守っていく新たな産物となることだろう。

大学院医歯学総合研究科
腎研究センター
斎藤亮彦 特任教授

| Profile | 博士（医学）。専門は腎臓内科学、糖尿病学。メガリン分子を用いた腎臓病の新しい診断・治療法の開発および実用化を目指し、トランスレーショナルリサーチに取り組む。

特別なあなたに 特別な1枚
「新潟大学カード」
入会受付中！

新潟大学全学同窓会では、三菱UFJニコスと提携して、ゴールドプレステージの「新潟大学カード」を発行しています。多くの特典を享受できるとともに、新潟大学の支援にもつながります。入会のお問い合わせは全学同窓会まで。

特典 年会費無料 海外・国内旅行傷害保険付き（最高3,000万円） 国内主要空港のラウンジが無料

新潟大学カードに関するお問い合わせ先
新潟大学全学同窓会事務局
電話：025-262-7891
（受付時間 平日 10：00～15：00）
E-mail：n-doso@adm.niigata-u.ac.jp

新潟大学キャリア・就職支援オフィス
CAN システム

卒業生と新潟大学生をつなぐ，キャリア形成サポートの新しいカタチ！
卒業生と学生をつなぐ CAN システム

CAN システムとは Web 上のシステムを介して，
学生の就職活動やキャリア形成をサポートしていただくシステムです。
社会の先輩として学生たちの悩みや不安にアドバイスをお聞かせください！

卒業生の皆様のご登録をお待ちしています！ 新潟大学 CAN システム 検索 URL https://www.career-center.niigata-u.ac.jp/

お問い合わせ先 新潟大学キャリア・就職支援オフィス TEL:025-262-6087 FAX:025-262-7579 E-mail:shushoku@adm.niigata-u.ac.jp

活躍する卒業生紹介 “学びの先”

新潟大学で“真の強さ”を学び、社会に羽ばたいた16万人を超える卒業生。社会で活躍する卒業生をご紹介します。

■フォッサマグナミュージアム学芸員 香取拓馬（かとりたくま）さん

Profile.
群馬県桐生市出身。1992年生まれ。博士（理学）。2015年3月、新潟大学理学部地質科学科卒業。同大学院自然科学研究科在学中の2020年4月より現職。地震、断層、地形発達などを研究。

親子向け野外体験

糸魚川市内で行なわれた能登半島地震の被害調査

地域の課題に取り組み教育の循環に貢献する

日本で初めて世界ジオパークに認定された新潟県糸魚川市にあるフォッサマグナミュージアムは、日本列島の成り立ちや地質学の歴史を学べる博物館。新潟県の石であるヒスイや、日本列島が誕生した際に形成された巨大な地溝帯「フォッサマグナ」を中心に、地球の変遷や自然環境、地震・火山・地すべりといった自然災害について学ぶことができる。このミュージアムで学芸員を務めるのが香取拓馬さんだ。

博物館は研究、収蔵、展示、教育の4つの機能を持つ施設。石の保管・管理や、展示の企画・準備など様々な業務を担当しながら、自身の研究も進める。昨年の能登半島地震発生の直後から糸魚川市内の被害調査も行なった。また、地域の自然や文化を活かした教育活動も担う。県内外の子どもたちへの館内案内や、フィールドワークを通じた学習支援、海外から小学生を受け入れることもある。香取さんが教育活動で大切にしているのは、「余白」を持たせることだ。

「余白」のある教育を意識する学芸員に

「学芸員を目指したきっかけは、子どもの頃に博物館で鉱物や化石に魅了されたことです。小学生の頃から博物館が好きで、学芸員の方々にたくさんのことを教えてもらいました。その経験が原体験として心に残り、今度は自分が伝える立場になりたいと思うようになりました」

糸魚川には理学部生時代の野外実習で訪れることが多く、大学院博士後期課程に在学中の2020年から現職に就いた。

「実際にフィールドに出て歩きながら、全てを説明しすぎないようにしています。子どもたちが自分で疑問を持ち、考える力を育むことが大切だからです。『なぜこうなるのか？』を問い、どこで発見を得るかは子ども自身に委ねます。可能な限りありのままを体験させ、その解釈の余白をつくることを意識しています」

この考え方の背景には、新潟大学での経験がある。

「学生時代、座学よりもフィールドワークの方が得意でした。特に、3年次のときに柏崎で地質マップを作成する課題がありました。どこを歩き、何を観察すればよいか、自分で考えなければならない。そのプロセスが面白かったのです」

在学中、2018年から2019年にかけて派遣された第60次南極地域観測隊に半年間同行した。新潟大学の学生としては初の試みであり、その経験も自身の視野を大きく広げたという。香取さんは今、地域の課題に取り組みながら教育の循環に貢献することを目指している。

「もっと深く自分で学ぶ習慣を、子どもたちに身につけてもらいたい。感受性や探究心を育む学習環境を作ること、次世代に地質学の魅力を伝え続けていくことが自分の使命だと感じています」

Information
■フォッサマグナミュージアム
https://fmm.geo-itoigawa.com/

新潟大学ネーミングライツ事業パートナー募集中

新潟大学では、施設等の有効活用及び教育研究環境を強化することにより、本学の価値を向上させることを目的としたネーミングライツ事業の実施にご賛同いただける事業者等を募集しています。

詳細はこちら

お問い合わせ：サポーター連携推進室　TEL：025-262-6010　E-mail：kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp

COLUMN ◆ 新潟大学教員によるコラム

“知見と生活のあいだ”

本学教員がそれぞれの専門領域と日常の接点を題材に、日々の生活に通じる理論やアイディアを綴るリレー式コラム。第33回は法学部です。

第33回●法学部「わたしのもの」と「みんなのもの」

© Curioso.Photography - stock.adobe.com

皆さんは「所有権」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？ 私が専門とする民法には、次のような条文があります。「所有者は、法令の制限内において、自由にその所有物の使用、収益及び処分をする権利を有する」（民法206条）。つまり、私たちは原則として、自分が所有している物をいかように使ってもよいとされており、自分の自転車に乗ったり、自分の本を読んだりするばかりでなく、その自転車や本を壊したり、破いたりすることも認められる、と解釈することができます。このように、所有者は所有物に対して、他人から口出しをされることなく、絶対的な権利を行使することができるとされており、そのような制度のことを「私的所有」と呼ぶこともあります。このような制度は、現在の私たちの社会における最も基本的な要素であり、約束事であるということができます。自分の家に知らない人が入ることを許さず安心して眠ることができるのも、自分が買ったケーキを横取りしようとする人を追い払うことができるのも、「所有権」や「私的所有」という仕組みが社会全体の約束事となっていればこそ、と考えることができるからです。

これだけ読んでも、きわめて当然のことにすぎないと感じられるかもしれません。しかし、次のような例はどうでしょうか？ 例えば、オークションで高値がついたり、有名な美術館のコレクションになったりする芸術作品があります。レオナルド・ダ・ヴィンチの「モナ・リザ」や、フェルメールの「真珠の耳飾りの少女」といった絵画は皆さんもご存知のことと思います。仮に、あなたがそのような著名な絵の所有者になったとして（私にはそのようなお金はありませんが）、あなたがその絵を壊すことや燃やすことは許されるのでしょうか？ 修復技術が発達したとしても、残された灰を絵に戻すことはできないでしょう。同じような疑問は、最近ますます問題となっている自然環境についてもいうことができそうです。あなたが持っている山や土地を、あなただけのために好き勝手に使ってもよいのでしょうか？ 周囲に暮らす人々の生活を考慮する必要性はないのでしょうか？ 一度壊れたものはなかなか元に戻らないということは、自然環境についても妥当しそうです。

こうして考えてみると、私たちが暮らす社会には、「わたしのもの」の他に「みんなのもの」が存在しているようだ、と考えることができます。現代社会で問題となる様々な事柄は、これまでの所有制度に加えて、「みんなのもの」という観点から考えることができるのではないか、ということが最近の関心事です。

林滉起
法学部講師

専門は民法学。なかでも、所有権や契約に関する研究を行なっており、今後も研究領域を拡大していきたいと考えている。新潟大学に着任してから、新潟の日本酒が好きになった。

創立 75 周年記念募金

次世代の人材育成と科学の発展に寄与し、
社会に貢献する 新潟大学

卒業生の皆様をはじめ、多くの皆様のご理解とご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

詳細はこちら

お問い合わせ　創立 75 周年記念事業準備室　TEL：025-262-5626　E-mail：niigata_univ.75th@adm.niigata-u.ac.jp

ー学生の輝く未来を共に創るー 基金関係のお知らせ

地域の中核を担い国際社会で活躍する人材を輩出するため、「学生の修学支援」「国際交流」「教育施設整備」の推進を目指しています。

新潟大学まなび応援基金

■目的 経済的理由により修学が困難な学生及び障がいのある学生に対して、修学支援事業を行います。
「輝け未来!!新潟大学入学応援奨学金」「新潟大学大学院博士課程奨学金」「新潟大学修学応援特別奨学金」の支援により、
修学・学生生活支援及び経済支援を行っております。

■寄附者名簿（R6.9～R6.11寄附入金分）※（50音順 敬称略）

〈 個人 〉青木 あづさ　新井 裕哉　石田 武裕　岡村 隆行　小林 博典　住田 孝二　外山 久泰　棟方 隆一　山﨑 秀　吉田 滋　米川 宏一　匿名希望15名

～優秀な大学院生の研究を応援～ 新潟大学研究等支援基金

■目的 学生等又は不安定な雇用状態にある研究者への研究等を支援する事業を行います。令和4年1月に創設し、
「未来社会を牽引するグローバルな総合知を備えたフロントランナー育成プロジェクト」により、大学院生の研究費支援を行っております。

■寄附者名簿（R6.9～R6.11寄附入金分）※（50音順 敬称略）

〈 個人 〉石田 武裕　大藏 幹彦　岡村 隆行　倉岡 節夫　匿名希望4名

新潟大学基金

■目的 新潟大学の基盤整備、企業や地域社会との連携、教育・研究活動支援、国際交流活動支援、学生のための厚生施設整備などを推進する事業を行います。

■寄附者名簿（R6.9～R6.11寄附入金分）※（50音順 敬称略）

〈 個人 〉青木 清美　石川 恵三　太田 隆　小越 信行　國井 元樹　佐藤 壽則　田澤 昇　頓所 裕史　長谷川 直美　松澤 澄江　横野 知江　浅野 秀之　石田 武裕　大鳥 範和　梶原 謙一　倉岡 節夫　佐藤 正道　田島 直也　内藤 義隆　馬場 暁　松村 博雄　横山 綾美　阿部 隆　石橋 輝樹　大野 勝　片平 邦昭　黒澤 昌基　鈴木 俊男　田島 睦子　永田 尚志　濱田 一成　三上 正人　吉田 滋　阿部 隆之　井手 協太郎　大矢 和憲　勝井 丈美　小関 賢　清野 ちあき　玉木 駿佑　中田 由紀子　東田 良和　箕輪 正和　吉田 教子　新川 恒夫　伊藤 秀紀　大山 俊之　門脇 康之　後藤 真紀子　清野 真輝　田村 光明　中谷 尚登　平井 涼　宮本 弘介　米川 宏一　有松 美紀子　伊藤 充　岡村 隆行　金子 淳一　近藤 健一郎　関 和也　土屋 裕行　中村 隆志　廣田 巨樹　森 勇造　渡辺 明弘　安藤 勧　稲葉 治久　岡村 光展　川又 健司　坂口 愛実　関根 理　寺田 剛　中村 航　廣見 宣夫　山﨑 秀　渡邊 景亮　飯野 隆史　江端 周二　小川 哲也　木戸 敏雄　佐久間 幹　袖山 健一　鳥羽 雅英　仁林 志津江　福田 健　山田 耕世　匿名希望315名　**池田 裕一　大藏 幹彦　小倉 裕美　巻田 勝祐　佐藤 純一　滝澤 哲也　外山 久泰　野口 公聖　保星野 真　山田 哲哉**

〈 団体 〉あがの市民病院売店　株式会社ウィザップ　越後ファーム株式会社　一般財団法人協和会　株式会社熊谷組　株式会社コーシン　コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社ベンディング新潟支店　株式会社コロナ　サントリービバレッジソリューション株式会社　株式会社シアンス　JA新潟厚生連柏崎総合医療センター売店　JA新潟厚生連けいなん総合病院　JA新潟厚生連上越総合病院　JA新潟厚生連新潟医療センター　JCCソフト株式会社　Japan Trinity Creation 株式会社　損害保険ジャパン株式会社　胎内電建工業株式会社　中越運送株式会社　一般財団法人永井知覚科学振興財団　新潟医療生活協同組合木戸病院　新潟縣信用組合　新潟県福祉保健部健康づくり支援課成人保健係　新潟県立新潟高等学校　新潟信用金庫　新潟大学生活協同組合　日本精機株式会社　株式会社ネクスコ・エンジニアリング新潟　原信ナルスオペレーションサービス株式会社　フジイコーポレーション株式会社　株式会社ブルボン　株式会社和光ペンディング　匿名希望4団体

新潟大学サポーター倶楽部

■目的 継続して新潟大学を支援するため、倶楽部年会費の全額を「新潟大学基金」に寄附します。
また、会員様へ本学の情報発信を行い、新潟大学と会員及び地域社会との連携と発展を目指します。
https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/supporters/

【令和6年度から入会の新規会員のご紹介】
〈 団体 〉株式会社ラクウェブ

最新の会員名簿は、以下のURLからご覧いただけます。
https://www.niigata-u.ac.jp/wp-content/uploads/2020/04/club2024.8.pdf

クラウドファンディング

■目的 インターネットを通して、本学が設定した具体的なテーマやプロジェクトに共感した方や応援したい方から資金を募り、各プロジェクト事業を推進していきます。

■寄附者名簿（R6.9～R6.11寄附入金分）※（50音順 敬称略）

プロジェクト名：暑さでお米がピンチ！新品種と栽培対策の確立で日本のお米を守りたい！／プロジェクト実行責任者：山崎 将紀

〈 個人 〉ｱｲｼﾃﾙﾆｲｶﾞﾀ　井上 健二　加藤 幸男　児島 正　櫻井 篤　杉野 ゆかり　田中 健路　長井 俊郎　はぢ　星 豊一　村野 義明　渡辺 聖子　あかたる　上野 洋子　金澤 宏　小寺 三千子　佐藤 純一　鮭川 清美　田中 昌平　中岡 史裕　林 美栄子　堀井 滉大　森 勇造　grun1301　阿久津 忠寛　江川 仁美　かわちゃん　小林 麻子　佐野 春雄　清野 真紀子　田中 繁史　永野 邦明　原 晃浩　米米米(まいべいべー)ﾌｧﾝ　柳本 昭子　Shane　匿名希望90名　**浅野 賢治　大久保 大助　河本 彬宏　小林 辰也　塩入 将人　錢 瓊毓　種市 順昭　中野 裕介　張替 徹　前迫 晃一　山浦 久美子　荒木 優花　太田 真也　絹谷 雅幸　小林 美咲　重松 徹郎　相馬 広輝　ちゆき　新坂 美穂　日向野 とみ　前田 道弘・美穂　山田 知恵子　荒水 健太郎　大平 勇樹　きみこ　齋藤 友子　篠原 正明　高木 哲夫　寺尾 朋子　西山 さとし　人見 琢也　松木 一忠　山本 悠滋　五十嵐 護　小黒 起美代　久志田 順子　齋藤 志乃ぶ　島田 和典　高野 陽充　土井 友紀子　パクパクさん　平本 滋子　松葉 修一　山本 善則　池田 洋亮　おにやんま　竹内 留佳　ハシモト ユウスケ　廣井 健治　三ツ井 敏明　吉田 悠　石原 久司　小野 凌汰　合田 喬　坂井 海男　清水 正昭　トーヤ　武江 弘靖　ﾄｯｶちゃん大好きくらぶ　向井 伸夫　渡邊 恵一**　匿名希望3団体

〈 団体 〉株式会社アミノ　合同会社Ex Oriente Lux　税理士法人小川会計　オフィス株式会社　株式会社銀シャリ亭　燦燦CAFE　塩川酒造株式会社　株式会社菅野産業　株式会社すよし農事　そだたべbooks　株式会社田中米穀　株式会社ナルサワコンサルタント　株式会社ファイトクローム　株式会社保苅米穀　ほんだデンタルオフィス　匿名希望3団体

トピックス

■トピックス1

「令和6年度新潟大学サポーター倶楽部報告会・情報交換会」を開催しました

本学は、「令和6年度新潟大学サポーター倶楽部報告会・情報交換会」を、11月29日市内ホテルにおいて開催し、新潟大学サポーター倶楽部会員、学生、大学関係者の計143名が参加しました。
毎年、倶楽部会員の皆様より支援を受けた学生からの謝意や特色ある活動をお伝えする場として同会を開催しております。
報告会では、牛木辰男学長から動画による挨拶として本学の取組をはじめ、創立75周年記念式典協力への謝辞、学生への各種支援事業報告を中心に説明がありました。その後、倶楽部会員からの支援による奨学金の受給者のうち代表の学生10名から、ご支援に対する感謝と共に研究活動や課外活動などの大学生活や自身の体験、将来の夢などについて発表がありました。

情報交換会では、テーブルごとに倶楽部会員と学生による意見交換が行われ、倶楽部会員からは、「支援している学生達が頑張っていることを知ることができた」「学生と交流する機会が持てて良かった」などの声が聞かれました。また学生からは、「社会人としての心構えやアドバイス、将来の希望を真剣に聞いてもらえた」などの意見があり、とても有意義な会となりました。
本学では、今後もサポーター倶楽部の輪を広げ、「学生の修学支援」「国際交流」「教育施設整備」を推進してまいります。

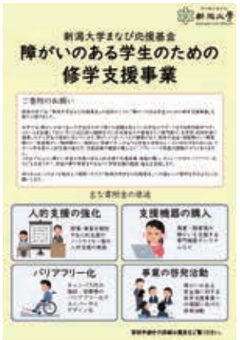
■トピックス2

株式会社ブルボン様へ感謝盾を贈呈しました

10月31日、株式会社ブルボン本社において、牛木辰男学長より吉田康代表取締役社長へ記念盾を贈呈させていただきました。
株式会社ブルボン様からは、学生の修学支援や人材育成及び地域社会への更なる貢献を目的として「新潟大学創立75周年記念募金」及び「"日本一"医師育成拠点創設基金」へ多大なるご寄附を賜りました。
また、株式会社ブルボン様からは、新潟大学サポーター倶楽部会員としても本学への支援を賜っております。

■トピックス3

障がいのある学生のための修学支援事業



本学では、「新潟大学まなび応援基金」の目的の1つに「障がいのある学生のための修学支援事業」を新たに設けました。
本学では、障がいがあり主に大学生活の中で様々な困難を抱えている学生のサポートをする特別修学サポートルームを設置しており、そこには公認心理師並びに社会福祉士の資格をもつ専門員が、各学部、研究科等と連携しながら学生の相談に応じています。障がいにはいくつもの種類があり、肢体不自由・視覚障がい・聴覚障がい・発達障がい・精神障がい・病弱など多様です。このような学生の多様なニーズに対応するためには、サポート学生等の人的支援の強化や、支援設備や機器の購入など、ソフト・ハード両面の課題が少なくありません。
これまで以上に、障がい学生の支援に係る人的支援や支援設備、機器の購入、キャンパス内のバリアフリー化などを充実させて、学生の夢や希望を叶えるべく学修支援の推進・強化を目指します。
皆さまには、このような趣旨をご理解いただき「新潟大学まなび応援基金」への温かいご寄附を何卒よろしくお願いします。

遺贈によるご寄附

■遺贈とは

遺言により、ご自分の築き上げられた財産を特定の方々に寄附することを遺贈といいます。
この方法で所有しておられる資産の一部を、新潟大学に遺贈したいとお考えの方のため、高度な専門性と豊富な経験を有する銀行と提携し、その手続きの便宜を図るものです。
遺贈による寄附のご利用を希望される場合やご不明な点がある場合は、サポーター連携推進室へお問い合わせください。

新潟大学遺贈寄附ページ　https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/legacy/

あたたかいご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。
「興味がある」「詳しく知りたい」「寄附したい」とお考えの皆様へ

詳しい資料をお送りいたしますので、お問合せ先までご連絡願います。新潟大学ホームページでも詳細をご覧いただけます。

お問合せ先　新潟大学サポーター連携推進室　TEL 025-262-5651・6010・6356　E-mail kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp　HP https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/

Campus Information

地域に密着しながら様々な活動を続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります。

創立75周年記念式典及び記念祝賀会を開催しました

2024年10月19日、ANAクラウンプラザホテル新潟で創立75周年記念式典及び記念祝賀会を開催しました。記念式典には、文部科学省をはじめ、県内外の関係諸機関・企業の皆様、海外協定校の皆様、同窓の皆様約450名のご臨席を賜りました。

記念式典は、始めに牛木辰男学長が式辞を述べ、続いてご来賓の方々よりご祝辞を頂戴しました。最後は、本学管弦楽団による祝典演奏で花を添えました。

式典後に開催した記念祝賀会にも、引き続き多くの方がご出席くださいました。

司会は新潟大学アンバサダーの宇賀神唯さん、山田彩乃さんがつとめ、学長挨拶の後、ご来賓の方々よりご祝辞を頂戴しました。

続いて、新潟古町芸妓の皆様による祝舞が披露され、本学のますますの発展を祈念して鏡開きが盛大に行われた後、下條文武元学長より乾杯のご発声を賜りました。

祝賀会の最中には、本学吹奏楽部による演奏が行われたほか、新大コシヒカリで作られたおむすびや日本酒「六花の杜」、「新雪物語」などの本学にちなんだお料理やお酒が祝宴を彩りました。

最後に、髙橋姿前学長よりご挨拶を頂戴し、本学の坂本信理事・副学長よりお礼のご挨拶を述べ、盛会のうちに幕を閉じました。

ご出席いただきました皆様にはあらためまして感謝申し上げますとともに、本学は創立100周年に向け、志を高く掲げながら邁進して参ります。今度とも本学への一層のご支援・ご声援のほどお願い申し上げます。

新大祭～in古町ルフル～を開催しました

本学では、創立75周年を記念して、2024年11月2日、3日に「新大祭～in古町ルフル～」を開催しました。本イベントは、創立75周年記念事業の一環として、地域の皆様への感謝の思いを込めて、普段、大学構内で行っている学園祭の雰囲気を、街中で感じていただくために企画したものです。

2日は前夜祭イベントとして、古町ルフル広場のステージで学生サークルや卒業生によるパフォーマンスが披露されました。

3日は、学生サークルや卒業生によるステージイベントに加え、スペシャルゲストのこがけん様、しずる様、たむらちんの助様によるパフォーマンスが披露されました。また、学部や学生団体等によるテント出店が行われ、多くの方にお越しいただきました。

本イベントを通じて多くの方に本学に関心をお持ちいただけたほか、多くの方から励ましのお言葉もいただきました。あらためて御礼申し上げます。本学は今後も地域に根差す大学として歩んでまいります。

新潟大学 季刊広報誌 六花
RIKKA 2025.WINTER No.51
発 行／2025（令和7）年3月
編 集／新潟大学広報室
（新潟市西区五十嵐2の町8050番地）
電 話／025-262-7000
Home Page https://www.niigata-u.ac.jp/
E-mail rikka@adm.niigata-u.ac.jp

定期送付のお知らせ 季刊誌「六花」は卒業生の皆様に無料で定期送付させていただきます。ご希望の方は、広報室までご連絡ください。

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。